
鋼船規則検査要領

U 編

非損傷時復原性

要
領

2007 年 第 1 回 一部改正

2007 年 9 月 27 日 達 第 45 号

2007 年 7 月 2 日 技術委員会 審議

2007 年 9 月 27 日 達 第 45 号
鋼船規則検査要領の一部を改正する達

「鋼船規則検査要領」の一部を次のように改正する。

U 編 非損傷時復原性

U2 貨物船に対する復原性要件

U2.1 一般

U2.1.2 を次のように改める。

U2.1.2 復原性要件の計算

-1. 復原性要件の計算においては、乾舷甲板下の船体のほか、次に掲げる部分を算入することができる。

- (1) 1966 年の満載喫水線に関する国際条件の附属書 I・満載喫水線を決定するための規則（以下、本編において「条約」という。）第 3 規則(10)(b)の規定に適合する乾舷甲板上第一層目及び第二層目の船楼
- (2) 条約第 3 規則(10)(b)の規定に適合し、上方の甲板に追加の出口を設けている乾舷甲板上第一層目の甲板室
- (3) トランク
- (4) 有効な閉鎖装置を備える倉口
- (5) 閉囲されたものとみなされない船楼又は甲板室の開口が浸水する角度までの部分ただし、その角度以上では算入された部分は存在しないものとみなす。

-2. 復原性要件の計算においては、甲板室内のすべての甲板口は閉鎖されているものとみなして差し支えない。ただし、条約第 12 規則の規定に適合しない戸を有する甲板室内の甲板には、条約第 15, 17 及び 18 規則の規定に適合する閉鎖装置を設けなければならない。

-3. タンク内自由表面影響については、次によること。

- (1) 航行中に液位が変化しないタンク（例えば、貨物タンク）については、実際の積載状態に対する自由表面影響を計算すること。
- (2) 消費液体等、航行中に液位が変化するタンクについては、(4)又は(5)に規定する場合を除き、それぞれのタンクについて、航行中に予想される液位の範囲（操船に関して特に指示がある場合はこれに矛盾しない範囲として差し支えないが、特に指示の無い場合、すべての液位について考慮する。）における最大の自由表面影響を計算すること。
- (3) 消費液体のタンクについては、液体の種類毎に、各舷 1 対のタンク又は 1 個のセンタータンク以外は空又は満載であると仮定の上、自由表面影響を計算し、その最大値を適用すること。
- (4) 航行中に漲排水するバラストタンク（減揺タンク等を含む。）については、漲排水操作中のもっとも好ましくない状態について、自由表面影響を計算すること。
- (5) 液体の移送作業に従事する船舶にあっては、移送作業中の各段階において、それぞ

れのタンクの液位に応じて自由表面影響を計算することとして差し支えない。

-4. キャンバを備えない船舶、キャンバより高いガッタバーを備える船舶及び船体中央における最大幅の 60%を超える幅の貨物タンクを有するタンカーにあつては、復原性の計算において、ガッタバーに滞留する液体の自由表面影響を考慮すること。

-35. 前-3.の規定にかかわらず、規則 S 編の規定が適用される船舶のタンク内自由表面影響については、次による。

- (1) ~~各消費液体ごと~~毎に、各舷 1 対のタンク又は 1 個のセンタータンク以外は空又は満載であると仮定する。
- (2) 対象とすべきタンクは、50%の積載状態で、30° の傾斜時に最大の自由表面モーメントを生ずるタンクとする。
- (3) 自由表面モーメントの計算すべき標準積荷状態は次の 4 状態とする。
 - (a) 貨物を全貨物区域に均等に積み付け、かつ、倉庫品及び燃料を満載している状態
 - (b) 貨物を全貨物区域に均等に積み付け、かつ、倉庫品及び燃料を 10%のみ積載している満載入港状態
 - (c) 貨物を積載せず、倉庫品及び燃料を積載しているバラスト出港状態
 - (d) 貨物を積載せず、倉庫品及び燃料を 10%のみ積載しているバラスト入港状態
- (4) 貨物タンクは、実際の積載状態に対する自由表面影響を計算する。

-46. 規則 U 編 2.1.1-3.の適用にあたっては、IMO 決議 A.749(18)の 5 章を参照すること。

附 則

1. この達は、2007 年 10 月 1 日（以下、「施行日」という。）から施行する。
2. 施行日前に建造契約*が行われた船舶にあっては、この達による規定にかかわらず、なお従前の例によることができる。
* 建造契約とは、IACS Procedural Requirement(PR) No.29(Rev.4)に定義されたものをいう。

IACS PR No.29(Rev.4)

英文（正）

1. The date of “contract for construction” of a vessel is the date on which the contract to build the vessel is signed between the prospective owner and the shipbuilder. This date and the construction numbers (i.e. hull numbers) of all the vessels included in the contract are to be declared to the classification society by the party applying for the assignment of class to a newbuilding.
2. The date of “contract for construction” of a series of vessels, including specified optional vessels for which the option is ultimately exercised, is the date on which the contract to build the series is signed between the prospective owner and the shipbuilder. For the purpose of this Procedural Requirement, vessels built under a single contract for construction are considered a “series of vessels” if they are built to the same approved plans for classification purposes. However, vessels within a series may have design alterations from the original design provided:
 - (1) such alterations do not affect matters related to classification, or
 - (2) If the alterations are subject to classification requirements, these alterations are to comply with the classification requirements in effect on the date on which the alterations are contracted between the prospective owner and the shipbuilder or, in the absence of the alteration contract, comply with the classification requirements in effect on the date on which the alterations are submitted to the Society for approval.The optional vessels will be considered part of the same series of vessels if the option is exercised not later than 1 year after the contract to build the series was signed.
3. If a contract for construction is later amended to include additional vessels or additional options, the date of “contract for construction” for such vessels is the date on which the amendment to the contract, is signed between the prospective owner and the shipbuilder. The amendment to the contract is to be considered as a “new contract” to which 1. and 2. above apply.
4. If a contract for construction is amended to change the ship type, the date of “contract for construction” of this modified vessel, or vessels, is the date on which revised contract or new contract is signed between the Owner, or Owners, and the shipbuilder.

Notes:

1. This Procedural Requirement applies to all IACS Members and Associates.
2. This Procedural Requirement is effective for ships “contracted for construction” on or after 1 January 2005.
3. Revision 2 of this Procedural Requirement is effective for ships “contracted for construction” on or after 1 April 2006.
4. Revision 3 of this Procedural Requirement was approved on 5 January 2007 with immediate effect.
5. Revision 4 of this Procedural Requirement was adopted on 21 June 2007 with immediate effect.

仮訳

1. 船舶の「建造契約日」とは、予定所有者と造船所との間で建造契約のサインが交わされた日をいう。なお、この契約日及び契約を交わす全ての船舶の建造番号（船番等）は、新造船に対し船級登録を申込む者によって、船級協会に申告されなければならない。
2. オプションの行使権が契約書に明示されている場合、オプション行使によるシリーズ船の「建造契約日」は、予定所有者と造船所との間で建造契約のサインが交わされた日をいう。本 Procedural Requirement の適用において、1 つの建造契約書に基づく船舶が同一の承認図面によって建造される場合は、シリーズ船と見なす。しかしながら、以下の条件を満たす設計変更にあっては、シリーズ船は原設計から設計変更を行うことができる。
 - (1) 設計変更が船級要件に影響を及ぼさない、又は、
 - (2) 設計変更が船級規則の対象となる場合、当該変更が予定所有者と造船所との間で契約された日に有効な船級規則に適合している、又は設計変更の契約が無い場合は承認のために図面が船級協会に提出された日に有効な船級規則に適合している。オプションによる建造予定船は、シリーズ船の建造契約が結ばれてから 1 年以内にオプションが行使される場合、シリーズ船として扱われる。
3. 建造契約の後に追加の建造船又は追加のオプションを含める契約の変更がなされた場合、建造契約日は予定所有者と造船所との間で契約変更がなされた日をいう。この契約変更は前 1. 及び 2. に対して、「新しい契約」として扱わなければならない。
4. 船舶の種類の変更による建造契約の変更があった場合、改造された船舶の「建造契約日」は、予定所有者と造船所との間で契約変更又は新規契約のサインが交わされた日をいう。

備考:

1. 本 PR は、全ての IACS メンバー及び準メンバーに適用する。
2. 本 PR は、2005 年 1 月 1 日以降に“建造契約”が行われた船舶に適用する。
3. 本 PR の Rev.2 は、2006 年 4 月 1 日以降に“建造契約”が行われた船舶に適用する。
4. 本 PR の Rev.3 は、2007 年 1 月 5 日に承認され、これは直ちに効力が生じる。
5. 本 PR の Rev.4 は、2007 年 6 月 21 日に採択され、これは直ちに効力が生じる。